

施設長 各位

那覇市医師会
会 長 山城千秋
担当理事 宮城政剛



「新型コロナウイルス感染症」関連資料の提供について

平素より医師会事業へのご支援ご協力賜り感謝申し上げます。

那覇市保健所・仲宗根所長より「沖縄県疫学・統計解析委員会」からの報告事項をご提供いただきましたので下段にてご報告致します。

☆ 問合せ先（那覇市医師会 事務局：前泊・上原 / 電話 098-868-7579）

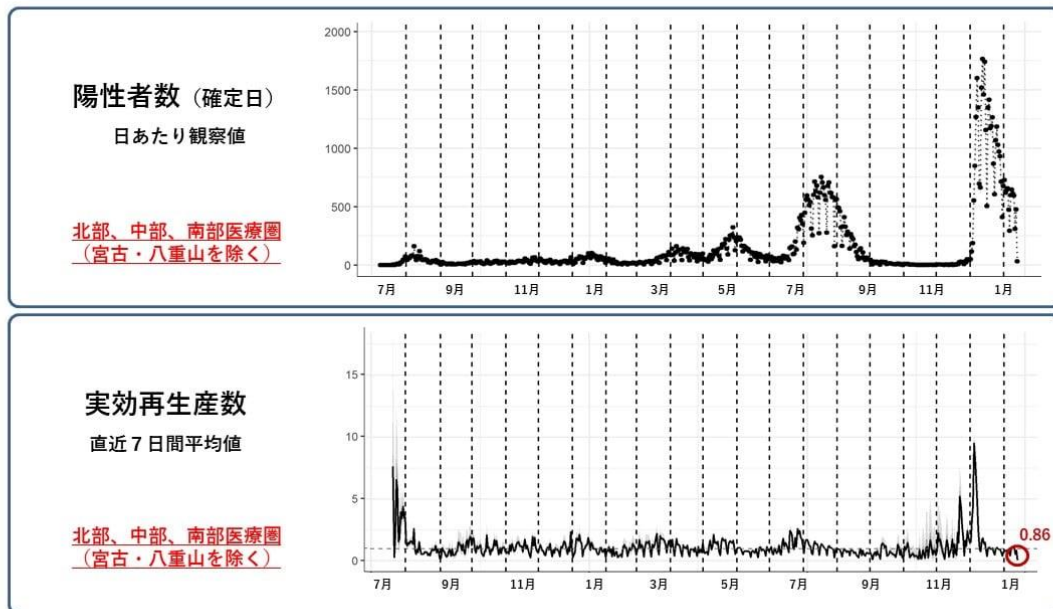
◎ 沖縄県疫学・統計解析委員会から【現状】と【推定】と【解説】をいただきましたので、ご報告致します。（取扱注意でお願いいたします。） 【那覇市保健所 所長 仲宗根 正】

【 現 状 】

■ **新規陽性者数・実効再生産数**：沖縄県における先週（2月7日-13日）の新規陽性者数は、3,856人（先々週 4,344人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R) *1 は0.86 [最小値 0.44-最大値 1.10]、このうち那覇市は0.86 [0.44-1.16]でした。また、宮古は1.23 [0.54-2.79]、八重山は1.16 [0.62-2.56]でした（図1）。沖縄本島は緩徐に減少していますが、離島では増加に転じています。

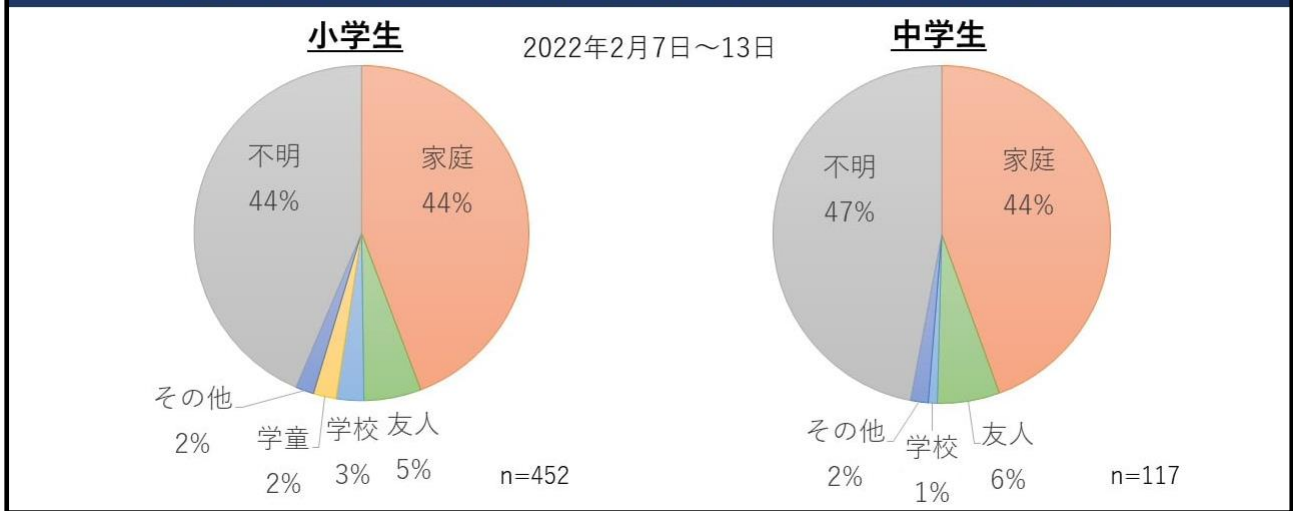
(*1：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。）

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）



■ **年齢階級別推移**：年齢階級別では、10歳未満が711人（17%）と最多で、30代621人（16%）、40代547人（14%）と続きます。90歳以上を除くすべての年代において減少しています。

図3 小学生と中学生における推定感染経路（沖縄県）



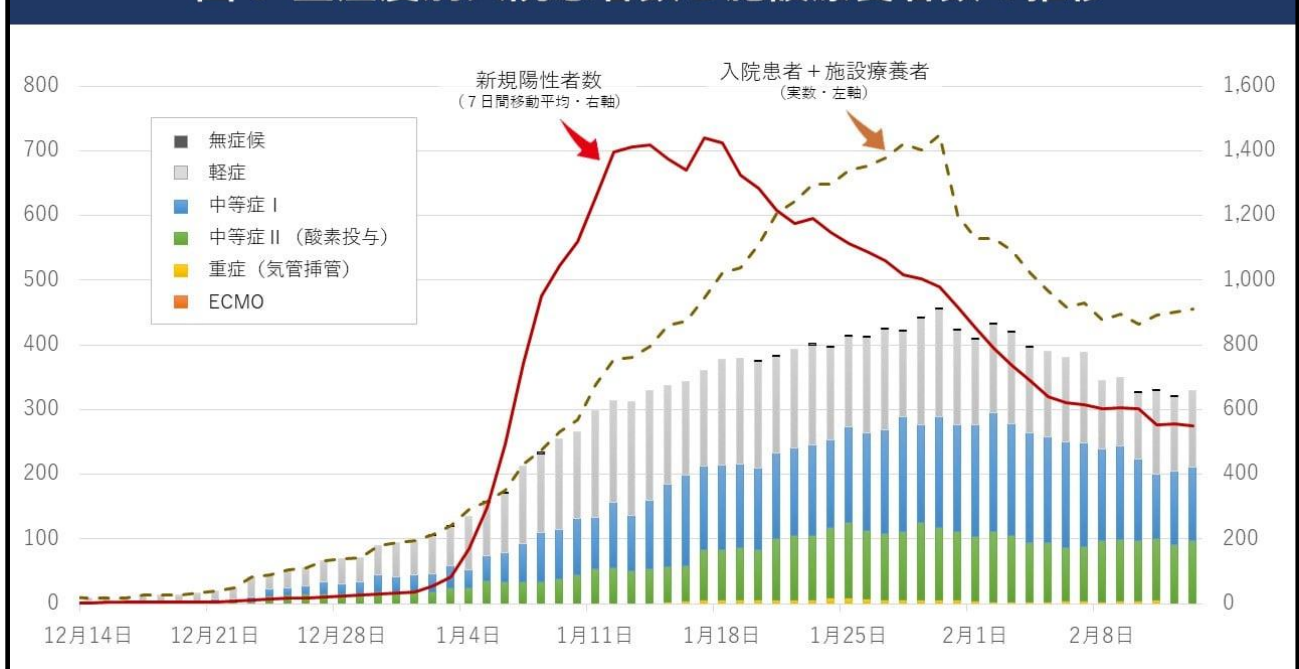
■ 幼年・若年層：学校別では、保育園・幼稚園児 186 人、小学生 452 人、中学生 117 人、高校生 99 人でした。

保健所による疫学調査によると、小学生の推定感染経路は、家庭 200 人 (44%)、友人 25 人 (5%)、学校 12 人 (3%)、学童クラブ 10 人 (2%)、不明 197 人 (44%) でした。また、中学生の推定感染経路は、家庭 52 人 (44%)、友人 7 人 (6%)、学校 1 人 (1%)、不明 55 人 (47%) でした (図3)。

■ 保健所管区別・市町村別推移：保健所管轄区域別 (7 日間合計) では、北部 185 人 (先々週 249 人)、中部 1,386 人 (先々週 1,712 人)、那覇市 824 人 (先々週 954 人)、南部 1,106 人 (先々週 1,165 人)、宮古 141 人 (先々週 94 人)、八重山 168 人 (先々週 131 人) でした。北部、中部、那覇市で減少が続いていますが、南部は下げ止まり、宮古、八重山では増加しています。なお、県外からの渡航者は 41 人 (先々週 46 人) でした。

人口 1 万人以上の市町村別 (人口 10 万人あたり 7 日間合計) では、多い順に石垣市 299、与那原町 229、北谷町 179 でした。石垣市では、活動性の高い 30 代、40 代における感染が増加しており、今後も拡大する可能性があります。

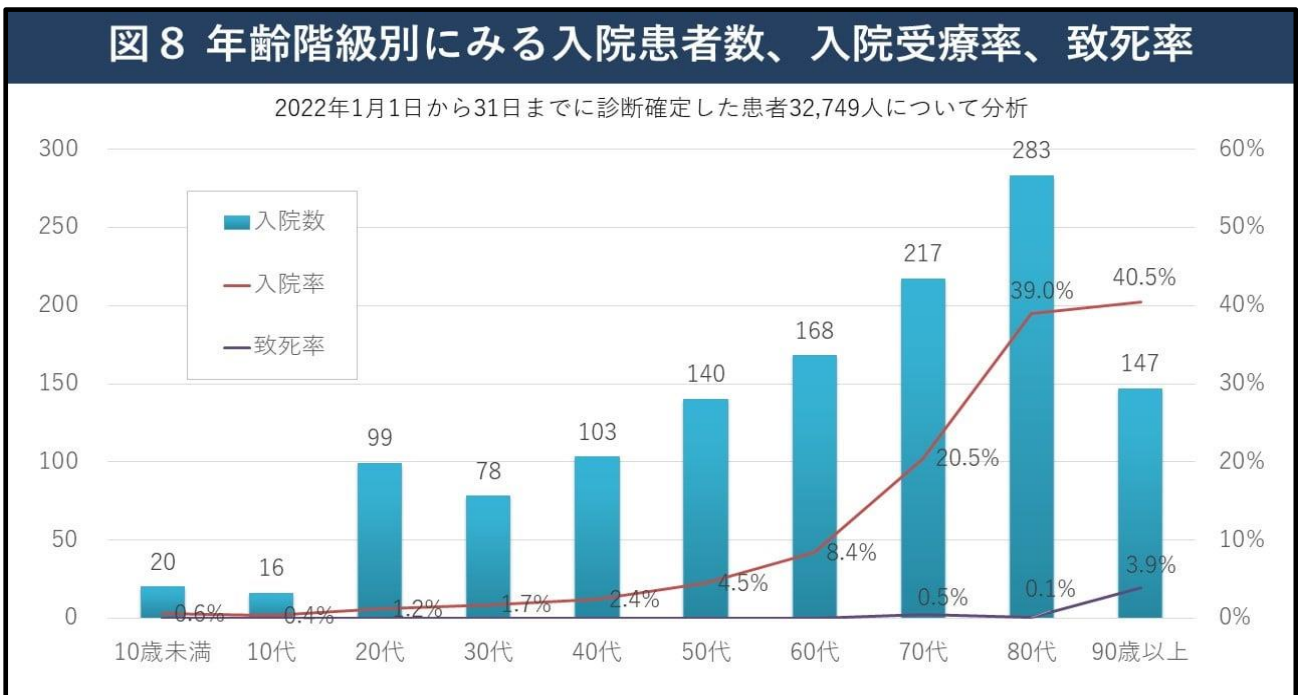
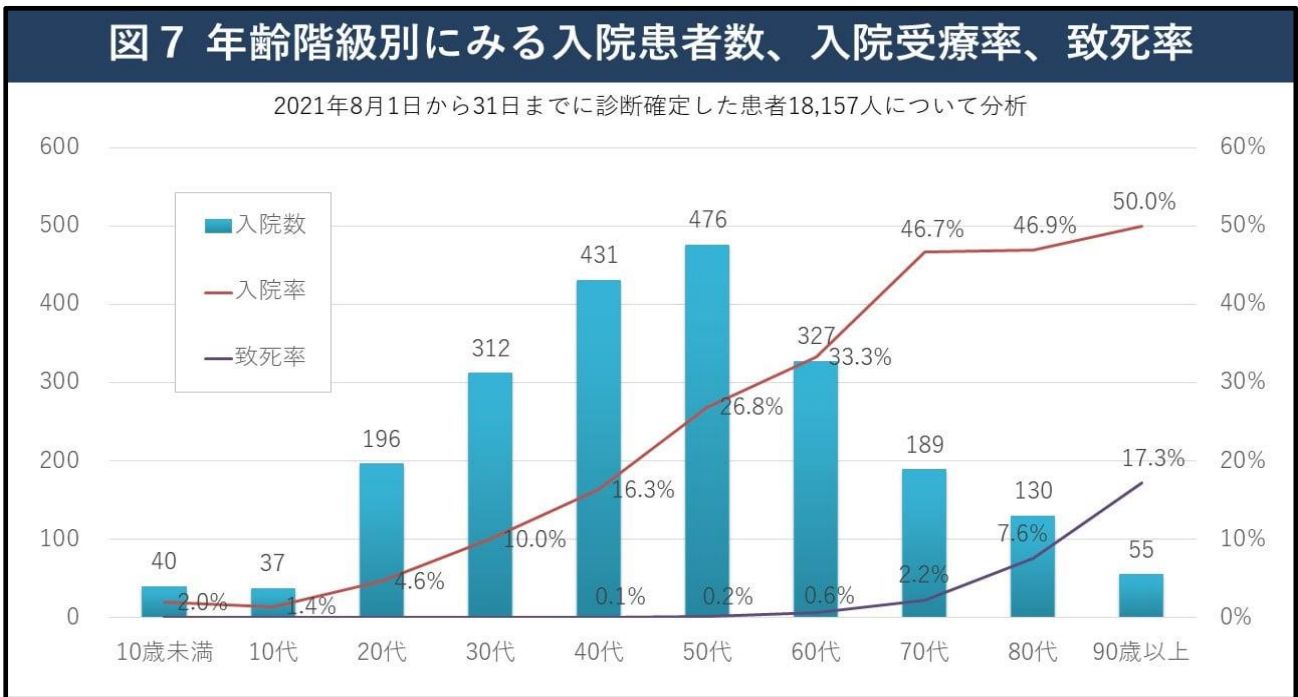
図6 重症度別入院患者数と施設療養者数の推移



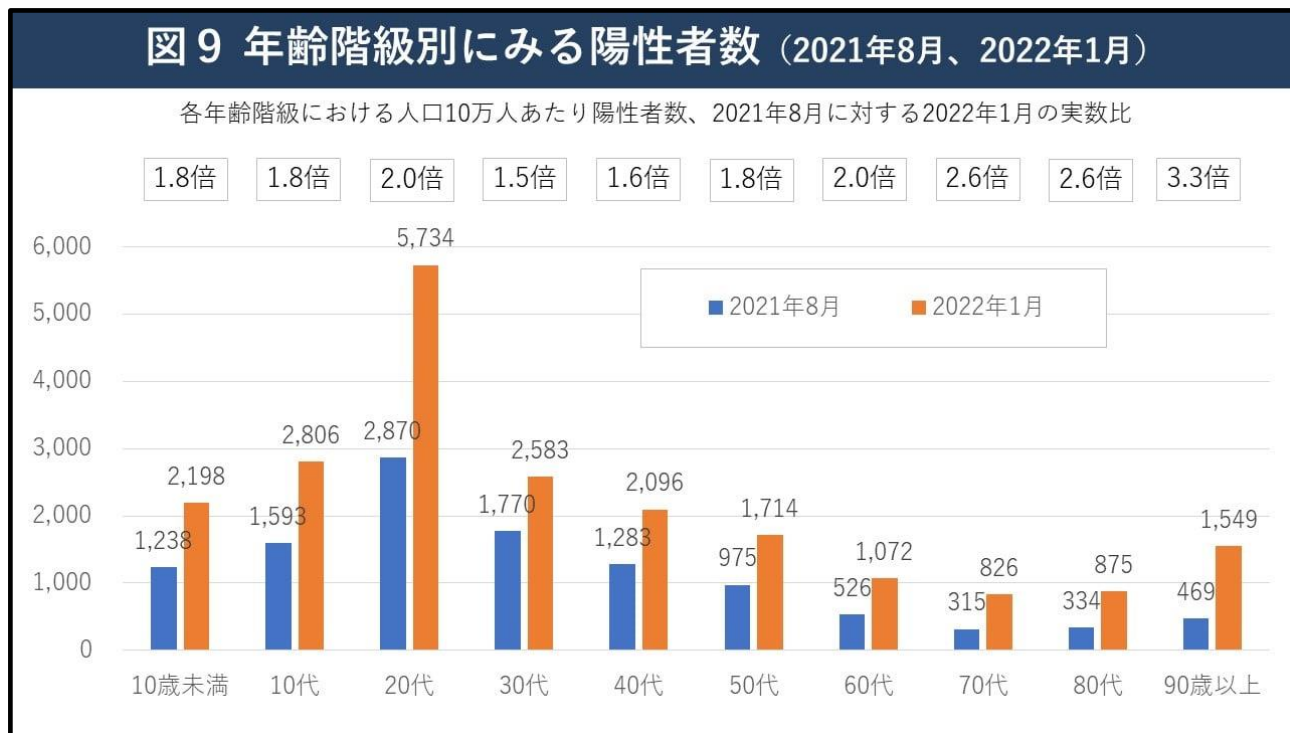
■ **入院患者数推移**：入院患者数は、先週末（2月13日時点）で334人と1週間前より45人減少しています。酸素投与など中等症患者は211人と1週間前より35人減少しています。一方、気管挿管など重症患者は5人と1週間前より3人増加しています。この他、社会福祉施設で療養されている陽性者が121人おられ、1週間前より42人減少しています（図6）。

■ **第5波との比較**：昨年の第5波にあたる2021年8月1日から31日までに、主にデルタ株によると考えられる18,157人の感染を診断し、2,193人が入院し、61人が死亡しています。入院患者が40代、50代の壮年層に集中している一方で、高齢者の感染そのものが少なく、入院受療率が高いものの実数は限られていました（図7）。

今年の第6波における2022年1月1日から31日までに、主にオミクロン株によると考えられる32,749人の感染を診断し、1,271人が入院し、20人が死亡しています。若年・壮年層の入院は陽性者の5%以下と少ない一方で、80代以上の高齢者では40%近くが入院しています（図8）。



年齢階級別に比較すると、すべての年代において昨年8月よりも今年1月が多く、とくに20代と高齢者で多数の陽性者を認めています（図9）。90歳以上では3倍を超えており、高齢者施設における集団感染の影響が考えられます。



若者の感染を確認したときの入院受療率は、オミクロン株において大きく低下したため、第6波では入院患者数が減少しています。しかし、80代以上の感染を確認したときの入院受療率は、デルタ株とオミクロン株では大きな差は認めておらず、多くの高齢者が感染したことにより入院患者数も増加しています。このため、高齢者の入院ならでの合併症への対応、身体介護、認知症への対応などが求められ、第6波では医療機関への負荷が高まっています。

ただし、全年齢において、デルタ株と比してオミクロン株の致死率は低くなっています。オミクロン株の病原性が低い可能性もありますが、ワクチン接種の推進、人工抗体薬の早期投与、巡回診療による施設支援などの効果も考えられます。

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、1月9日から実施されている重点措置について、2月20日までに解除することが検討されています。沖縄本島における流行は下げ止まっていますが、小児を除く若年層において減少が続いており、再流行の兆しとは言えません。一方、宮古、八重山では、若者層を中心として増加に転じていることから、このまま再流行へと移行する可能性があります。

現在も高いレベルでの流行は続いていることから、重点措置を解除した場合には再流行をきたすリスクがあります。このため完全な活動再開は困難であり、たとえば会食については同居する家族や親しい人に限るなど、個別に感染対策を保つことが必要です。

また、本土では大きな流行が続いているため、帰省や出張などで渡航者を受け入れる際には、事前に検査を受けて陰性を確認するように求めてください。渡航者を交えた多人数での会食については、できるだけ控えていただくようお願いいたします。

入院患者数については減少傾向が続いていることから、医療ひっ迫は徐々に改善してきています。ただし、高齢者施設での集団感染は散発しており、引き続き感染対策を強化するとともに、施設内療養者のための支援体制を維持していくことが求められます。そして、高齢者へのワクチン接種をさらに推進していくことが必要です（図10）。

今週の新規陽性者数は、3,000-4,000 人と見込みます。また、今週末までに入院患者数は 300-330 人
に至り、うち重症患者数は 3-4 人と見込みます (図 11)。

図10 都道府県別にみる 3 回目ワクチン接種率 (65歳以上・2月8日時点)



図11 今後 1 週間 (2月14日-20日) の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
年齢群別重症化率； 厚生労働省
平均期間 (入院・重症)； HER-SYS

	新規陽性者数 (確定日)				入院患者数※				重症患者数※			
	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.5	2.0
北部	92	185	373	750	37	40	46	55	0.0	0.0	0.0	0.0
中部	693	1,395	2,809	5,657	78	94	119	161	0.6	0.7	0.7	0.7
那覇市	409	824	1,659	3,341	69	82	102	136	2.5	2.5	2.5	2.6
南部	556	1,120	2,255	4,542	62	75	97	133	0.0	0.0	0.0	0.1
宮古	72	145	292	588	19	22	28	36	0.0	0.0	0.0	0.0
八重山	91	183	369	742	10	11	13	17	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	1,913	3,852	7,757	15,621	276	325	405	539	3.2	3.2	3.3	3.4

※ 2月20日時点の見込み数

沖縄県疫学統計・解析委員会